

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	40797000065		
法人名	有限会社 ミモレ・ダイコク		
事業所名	グループホーム「やまびこ」		
所在地	〒835-0104 福岡県みやま市山川町河原内1224 (電話) 0944-64-9700		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 18 日	評価結果確定日	令和 5 年 4 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

有する能力に応じ自立した日常生活を営む支援の為、ご利用者様の思いや願いを尊重し、生まれ育った町で、長年住み慣れたなじみの地域でご本人らしい生活が送れるように、スタッフの意識共有を図り、福祉や医療に関するさらなる専門性を高め、その知識や技術を社会に広く普及啓発をする活動も増やします。認知症の方のケアと特別視せず、より軽介護度のお元気な方には活動的になれる場を提供し、認知症の進行予防や心身機能の維持に力を入れ、中重度の方には必要なケアをしっかりと行いながら、できることや残された機能を保っていただけるように援助していく。当たり前のことを当たり前に、当たり前のサービスの水準をあげながらケアサービスの質の担保を図っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 5 年 3 月 9 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所周辺は、四季折々の草花や田畑など自然豊かでのどかな環境にある。当事業所のほか、デイサービスや住宅型有料老人ホーム、居宅介護支援事業所を運営しており、それぞれの事業所が単独の建物で隣接している。看護師資格を有した職員が在籍し、IVH（中心静脈栄養）などの管理が必要な利用者の受け入れ体制が確立している。事業所近くの梅花園や神社への外出や、地域住民と共に稲刈りを毎年実施するなど、地域住民等との関係性を保っている。食事は職員が手作りし、旬の野菜や果物も食材としている。研修は年間計画に基づき実施し、介護事故に関しては委員会でも統計を分析し、重大事故を防ぐ取り組みがなされている。職員間のコミュニケーションツールとしてスマートフォンのアプリを活用し、伝達事項や資料などを共有している。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	有する能力に応じ、自立した日常生活を営む支援を徹底する事に努め、ご利用者様の思いや願いを尊重し、生まれ育った町で、長年住み慣れたなじみの地域で、ご本人らしい生活が送れるように、認知症ケアが特別過ぎるものではない、という認識をもって、日々のケアに取り組んでいます。1人の個人と尊厳を持ち、目標や方向づけることや具体的な方法論に落とし込めるよう指導しています。	理念は開設当初から変更なく、地域との関わりの大切さを謳っており、管理者は職員に対して採用時に理念を説明し、理念を共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	狭い範囲ではなく、広く地域の方と付き合うことや地域の方に頼りにしていただけるように、認知度の向上や情報発信を行っていきたくと考えています。運営推進会議や地域ケア会議での症例発表、中学校での福祉講座、民生員向けの施設案内、施設行事(お祭りや季節行事)の地域への案内や地域敬老会への参加、園児の慰問依頼など行っています。(コロナ禍で案内送付実施)	地域住民の協力も得て、利用者とともに毎年稲刈りを行うなど、地域の方と交流している。また、地域住民から旬の野菜や果物の差し入れをもらうことも多い。コロナ禍のため、行事交流は中止していたが、状況を見ながら再開する予定である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ情報発信不足ではありますが、認知症の方の支援に関して、より有意義な情報を発信していければと思っています。介護事業所として、発信できることは何かと模索しております。キャラバンメイト活動(オレンジ教室)や地域ケア会議・多職種連携会議などの参加を行っております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内での取り組み等の報告や地域の高齢者福祉等に関わる情報発信などを、行っています。特に大きな課題となっている人材確保や定着率の改善の取り組みなども、報告しております。また、意見の吸い上げ等も行っておりますが、コロナのため、書面での代替実施としております。	運営推進会議の構成員は家族、行政職員、町内会役員、民生委員、大学の先生で、利用者の紹介や近況、研修会の内容、事業活動報告、ボランティア受け入れ、感染状況などを議題としている。現在はコロナ禍のため、書面で開催しており、構成員に意見を求めてサービス向上につながるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2.と重複もありますが、みやま市の認知症ケアパス作成にあたり、作成補助メンバーとしての参加や、地域ケア会議・多職種連携会議での運営協力や症例発表等の実施、地域密着型協議会の運営協力を行っています。キャラバンメイトや地元中学・高校のキャリア教育にも参加しています。	行政とは、多職種連携会議の一員として、リモートで意見交換を行い、地域の課題などについて話し合っている。コロナ禍における各事業所の対応方法や認知症高齢者に対する連携方法なども協議した。小学生に対して認知症サポーター養成講座の役員としても関わっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	福岡県の身体拘束を行わない施設に登録し、事業所として、身体拘束を行わないことをトップダウンで発信するとともに、委員会設置による日々の啓発と見直し、職員教育を行っています。職員の理解に関しては、まだ十分なレベルに達しているとは言えませんが、現在実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。	帰宅願望のある方のケア方法を職員間で統一し、寄り添う大切さを実践している。危険認識が乏しい利用者に対して職員がすぐに駆け付けられるよう家族へ口頭で同意を得て居室にセンサーを設置している。玄関や他の出入口は、終日施錠している。	玄関や他の出入口の施錠は身体拘束に該当するため、開錠できる時間やリスク軽減できる環境作りについて、職員間での検討や委員会を通じて、少しずつでも実践、改善してほしい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者の尊厳保持のため、また、接遇面での強化のため、マニュアルの策定と研修会の実施を行っています。職員に関しては、まだ十分なレベルに達しているとは言えませんが、現在実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	弊社では、グループホーム以外の他の事業所があり、入所のみに関わらず様々な状況の方の対応を行っており、必然的に入所のみならず対応の必要性が増えています。また、居宅や福祉用具も含め、それらの情報共有を図っているため、実践的にも活用できるようにしています。	成年後見制度や日常生活自立支援事業に関する基本的な考え方や手続き方法などの資料を作成し、事業所内で研修会を実施している。家族へは適宜説明し、制度への橋渡しの役割として支援している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関する説明は、入所時にきちんと行っています。特に問題になりやすい入所後の転倒などの事故や入退院に伴う事柄、終末期ケアや看取りに関する事柄などは、その都度、複数回の説明と同意などの確認を行っています。また、医療機関などの外部機関がからむ場合は、施設が間に入って、対応を行っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	接遇向上委員会の設置と、ご意見としていただいた内容をスタッフ間で共有し、サービス改善につながるような仕組みを作っています。また、年1回、利用者全ご家族対象に、顧客満足度調査とスタッフ仕事意識調査を実践し、調査の内容をもとに改善すべきことは、直ちに実施し、現在実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。	職員は日頃から利用者の要望を聴き取り、可能な限り運営に反映させている。帰宅願望がある利用者に対して、家族の協力を得て一時外出したこともある。また、年1回、家族に満足度調査を実施し、出された意見を運営につなげている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なスタッフ会議の開催を行っています。中間管理職の育成に努めていますが、まだ十分なレベルに達しているとは言えません。一旦、目標を変えて、現場サービスをしっかりと行うことを目標にしています。中間管理職の会議を、不定期ですが開催し、方針等のコンセンサスを作っています。	管理者はスタッフミーティング以外にも個別にコミュニケーションを図ることを大切にしており、必要に応じて個別面談をしている。情報の視覚化やおむつの使用量、見守りスタッフの配置など、職員の意見を積極的に取り入れ、実践している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材育成制度を整備し、処遇の改善に努めています。成長意欲の高い職員には、外部の研修への参加を奨励し、全体的な底上げを図ることで、制度的・教育的就業環境の整備に努めています。本年は、コロナの影響もあり、社外研修の参加は少ないです。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用・処遇等において、特別な差別・区別等は行っていません。また、様々な専門職が縦割りにならず、在宅の高齢者福祉のプロフェッショナルを目指すことを主眼に置き、自由な発想と挑戦する気概を大事にするような職場環境でありたいと思っています。	採用選考では、性別や年齢等を理由に採用対象から排除していない。また、職員は必ず一つは委員会に所属し、積極的に活動でき自己実現できるよう努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	同和問題等に関しては、若年者には、歴史的にそういった風土があった点のみ説明し、中年者以降に対しては、どうしても生育環境等があるため、現代ではすでにその価値観自体が古く、誤っており、すでに時代錯誤である旨を伝えるようにしています。	認知症高齢者に関する人権教育を内部研修会で実施している。参加できない職員は資料をスマートフォンのアプリで共有し、伝達研修としている。また、職場におけるハラスメントに関する内部研修も実施しており、職員に対する人権についても学んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	制度や外部研修への症例を行っていますが、最終的にはOJTに重きを置き、先輩や熟練スタッフが若手の育成に努め、また、若手が中堅に育っていくにあたり、若手を育てるという循環作りを目指しています。まだまだ教育体制として不十分な点も多いですが、実践レベルの向上を図っています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個人の自主性を引き出しつつ、地域の連絡協議会や研修会への参加を奨励や、他施設の見学などを通し、施設内・法人内の価値観だけでなく、広く業界や地域・社会での情報に触れることができるように配慮しています。本年はコロナの影響のため、機会は少なくなっています。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り導入には細心の注意を払いながら、まずは日中の利用のみから始めるなどして、大きな環境の変化に対してネガティブな変化が起こらないように、可能な範囲で対応を行っています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者と同様に、導入には細心の注意を払いながら、しっかりと説明を行い、ご家族の求めるニーズとお困りごとに対して、真摯に向き合うようにしています。また、施設の限界や線引きなどに対してもきちんと説明を行い、理解を求めることで、後々のトラブルや言った・言わないなどのトラブル防止に努めています。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	基本的には医療面と連携して行うことがほ とんどであり、初期に緊急を求められる治 療的側面等があった場合は、医療機関との 間に入り、しっかりと説明を行い、高齢者 の場合に伴うメリット・デメリットを、ご 家族に寄り添う形で説明するようにしてい ます。また、導入時において、家族の協力 を求め、協同していくようにしておりま す。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	職員も年齢・性別・立場・個性等が様々な中 で、業務指導上では、あくまで私たちにとっ ての「お客様」であり、認知症があつて判断能力 などの低下があつても「目上の方」ですの で、接遇面を重視しています。その中で、人生の終 末期である認知症や要介護状態のご利用者様を 支えるために、スタッフ個人のホスピタリティ や個性を生かした関わりを、支援したいと考 えています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	支援しているのが施設だけにならないように、判断 は、ご家族様に委ねますが、その判断のために、必 要な情報はしっかりとお伝えさせていただき、ご家 族と一緒に支えさせていただいています。また、疎 遠になりがちなご家族様もおられますし、結果とし てのトラブルを回避することも踏まえて、サービ ス面での限界に関しては、線引きも重要と考えていま す。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	施設に入所するという事は、なじみの人 や場との関係が、基本的には途絶えること になりますが、様々なケースがありますの で、途絶えたうでも、人と人とのコミュ ニケーションが、なくならないように援助 をしていきますし、ご家族様や近隣の方が 訪問しやすい施設であるように努めていま す。	職員は利用者が生活してきた背景を把握 し、農業経験者が稲刈りに参加したり、先 生だった利用者へは計算問題を提供する 等、入居後も自身が得意とする活動など支 援できるよう努めている。また、家族だけ ではなく知人の面会もあり、馴染みの関係 が途切れず地域で支え合う関係づくりに努 めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る限り、部屋にこもりがちになら ず、共用のリビング等、他者交流が取れる 場で、介護サービスを提供したいと考 えています。反面、集団生活が苦にならない ように、お元気な方にはゆっくりする時間 やプライバシーを保たれる時間も必要 になります。また、お元気な方同士の コミュニケーションが、生まれやすい ような席配置など心がけています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	サービス終了の仕方にもよりますが、入院等 を伴う場合は、入院までの調整や情報提供・フ ォロー等説明をきちんと行い、先方が困ら ないよう相談・支援を行います。また、施設 看取りの場合等も、診断・エンジェルケア 後にお見送り・代表者のお参り等をさ せていただいています。終了後は必要 であれば、居宅等への丁寧な引き継ぎ などを心がけています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を聴取できる場合は、もちろん本人本意ですが、必要性や清潔保持のためには、多少の説得等を伴う場合があります。聴取できない場合は、ご家族様から聴取する形になりますし、徐々に本人本意ではなくなりますし、意向より身体的な苦痛がないかなどが、重要になってくるかと思うので、状態によって必要性を見極めながら援助を行っています。	職員は、利用者の心身の状態や気分の変化等を注意深く見守り、利用者の動き、表情や言葉等から希望や意向を読み取り、本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	まずは、入所時・ご利用開始時の情報収集をしっかりと行っています。本来であれば、この時点で、もっと生活に関する情報を手厚く集めたいのですが、手続き的に、ボリュームが大きくなってしまっていることもあり、入所後の情報収集になってしまっています。この点に関しては、より職員間の共通認識をしっかりとするために、初期の段階のケアプランにより盛り込んでいけるように、情報収集のタイミング等を考えたいと思っています。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ一人ひとりのアセスメント能力が、まだ十分なレベルに達しているとは言えませんが、現在、実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。スタッフの育成に合わせて、文章にする力や専門的な共通認識のもと、他者に伝える力を育成したいと考えています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	専門職を含めた共通認識を作るために、基本的なクリニカルリーズニングとロジカルシンキングをベースにしたいと考えています。現段階では、その点に関しては、一部の有資格者や中堅以上のスタッフの意見にあると思いますが、経験の浅いスタッフ等にも、考え方の基本を学んでもらうことが重要と考えています、それを踏まえたチームアプローチを目指しています。	利用者や家族の希望等を把握して、関係者の記録や評価、現場での気づきをもとに職員間で話し合い、利用者の視点に立って介護計画を作成している。3ヶ月に1回、状態変化に応じて見直しを行い、内容の充実を図っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付きや共有において、重要な点が、先入観をはずした客観的な視点とそれらを言語化することだと思いますが、いわゆるこのPDCAサイクルが、まだ十分なレベルに達しているとは言えません。現在、実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化に対応するための看護職員の配置や医療連携体制をとっています。様々なニーズに対応するためのスタッフ配置に取り組んでいるところです。必要であれば、リハビリセラピストからのチェック体制を作っています。共用型のデイサービスを含めて、ニーズに合わせた対応ができていけるようにと考えています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内での散髪などを定期的に行っています。また、園児の慰問や地域の演芸サークルの方の慰問などを取り入れています。地域のボランティアの方の受け入れも、積極的に行っているところですが、地域的な所もありますが、なかなか集まらないのが現状ですので、人材収集方法を検討していかなければならないと考えています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族等の希望がある場合は、在宅時からのかかりつけ医との連携を図り、特に希望がない場合は、施設のかかりつけ医との連携をとっていきます。施設・施設スタッフが間に入ることで、コミュニケーションや必要・不必要が明確になり、医療を受ける機会の喪失や過多にならないように、適度な医療を提供できるよう注意しております。	利用者や家族の希望する医療機関による受診や専門医の往診等、適切な医療が受診できるよう支援している。基本、通院介助は家族が支援しているが、状況に応じて職員が支援している。受診結果はその都度、家族と話し合い、共有している。主治医との連絡を密にし、指示や助言をもらっている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師が、医療機関看護師と連携を図り、スムーズに受診や検査等ができるように努めています。また、代理窓口として、本人様やご家族様の希望が、きちんと伝わるように支援しています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	施設サマリーの提供や在宅医からの紹介依頼のつなぎを行い、受診・入院時の情報提供をきちんと行い、普段のレベルや介護状況をきちんと伝えるようにしています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	中重度介護者への介護サービスや終末期ケア・見取りといった点では、自分たちの施設の限界を認識し、きちんとそれらを説明・同意を得ることが重要だと考えています。スタッフの共通認識に関して、まだ十分なレベルに達しているとは言えません。現在実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。	入居時に、重度化された場合における事業所の指針と同意書を作成し、説明を行っている。利用者や家族の思いに寄り添い、事業所が対応し得る支援方法で取り組んでいる。協力医療機関とのオンコール連絡体制を整備している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の防災訓練にて、急変時の対応も盛り込みながら、実践を行っています。事故発生時の対応等も、後で管理者や上長にあたるものからの対応に関するフィードバックなどを行い、反省点等に関しても、次回に生かせるようにしていきたいと考えています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の防災訓練にて、実践を行っています。防災設備や建物の給水・給湯等の環境の理解なども含めて、訓練を行っています。	年2回、消防署と地域住民に参加を呼びかけて避難訓練を実施している。訓練後は消防署員や参加メンバーで意見交換し、次回に活かしている。また、非常用食料や飲料水等を準備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳やプライバシー意識は、どうしても入所施設や認知症の方を対象にする場合に、おざなりになりやすい部分であると思います。「当たり前意識」や「慣れ」、「鈍感さ」などをキーワードに、出来ているから大丈夫ではなく、自分を律していくことを、常に求めていく必要があると感じていますが、まだ十分なレベルに達しているとは言えません。現在、実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。	職員は、利用者の誇りやプライバシー、尊厳ある姿を大切に、言葉遣いや対応を心がけている。管理者は、職員と利用者の日頃の関わり方について、共に考え、助言を行っている。個人情報の適切な取り扱いに努め、秘密保持の徹底を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択が、難しくなってきたご利用者様に対して、個別のニーズを聞き、それを個人に対してのみ提供することは、あまり公平・公正なサービスとは考えておりませんので、スタッフに対しても、自由な枠組みで、偏った個人の意見のみを吸い出すのではなく、ある程度の枠組みを作ったうえで、スタッフにも実践しながら、考えられるようになってもらいたいと考えています。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症ケアにおいて、気分を盛り上げていくことや、1人では作ることのできない生活バランスを、コントロールしてあげることが必要だと考えていますので、施設の時間を優先するわけではありませんが、それらに乗ってもらう・沿ってもらうことが大事だと考えています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室環境の整備や衣類の調整など、現在、実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。過去に、美容ボランティアさんによるお化粧などをイベント的に行っていただきました。日常的なこととこうしたイベント的な内容を組み合わせながら支援ができればと考えています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昨今の衛生管理の問題等もあり、食事の準備にご利用者様が入ることは、少なくなっており、お菓子作りやその他の行事などに、衛生管理をすたうえて、一緒に作業を行う形をとっています。オープンな厨房で、視覚や嗅覚など五感で感じていただくことが、食事の楽しみになるかと思えます。	手作り料理や地域食、旬の食材に拘り、利用者と職員が同じ内容の食事を同じテーブルで食べている。家庭的な雰囲気となるよう、ご飯茶碗や箸、湯のみは、各々の利用者本人の物を使用している。また、正月のお屠蘇・おせち等の行事食、ご当地グルメや手作りのおやつ作り等、食事を楽しむことができるよう支援している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「食事満足・摂食嚥下向上委員会」を設け、看護師を中心としたウェイト・栄養管理と、介護士を中心とした食事の満足度の向上・摂食嚥下機能のアセスメントとその対応を、しっかりと見直しながら行っています。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実践を行うこととしておりますが、まだ十分なレベルに達しているとは言えません。現在、実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄機能の低下に関しては、排泄そのものというより、排泄に伴う周辺の動作や更衣に対してできる機能を保てるように支援を行い、介護度が増すにつれ、増えるオムツやパッド類の経済的負担が大きくなっていくため、効果的かつ効率的な使用を行えるように努めながら、尿路感染などの起きやすい病態の予防に取り組んでいます。まだ十分なレベルに達しているとは言えません。現在、実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。	排泄の自立は生きる意欲や自信の回復に繋がるため、利用者の排泄の兆候を見逃さず、前誘導を行っている。介護用品の使用の必要性、適切性を随時検討し、日中、夜間、外出時等に応じて使い分けている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のヤクルトや牛乳などの対応や、食物繊維を多く含んだ素材や野菜類を、できるだけ盛り込んだ献立作りを行っています。お薬だけに頼った対応にならないよう、ケアのできる工夫を行っています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本的には、2～3回/週、希望があれば4回の入浴頻度を保てるようにしており、ご本人またはご家族からの希望や必要性・身体への負担などを考慮して入浴の支援を行っています。	利用者の生活習慣や希望に合わせて入浴支援を行っている。利用者の体調を確認後、入浴支援を行っている。無理強いはせず、足浴や清拭に変更し、利用者の希望に応じて柔軟に対応している。浴室・脱衣場の暖房、衣類の着脱や入浴の洗体など、ゆったりと気持ちよく入浴できるよう支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室環境で眠れない方もおられたりするので、リビングにパーソナルチェアを設置し、日中・夜間ともに、安楽の半臥位で、ゆっくりできる環境を作っています。リスク管理上、あまり閉鎖的な居室環境に居づらいうちでも、共用部で見守りしながらの安楽姿勢がとれるよう工夫しております。また、チルト・リクライニングの車いすを用いたりもしています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設看護師のみならず、かかりつけ医・訪問看護や薬剤師と連携し、服薬支援を行っています。医師・薬剤師と密な連携を取り、対応が難しい下剤、精神安定剤、抗認知症薬、睡眠導入剤などの細やかな調整を行っております。実践レベルの向上に取り組んでいます。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間の行事予定や月々の行事・活動予定をたてながら実施しています。レクリエーションのバリエーションや運営に関して、まだ十分なレベルに達しているとは言えません。現在、実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出先の希望を募ることで、外出支援を行っています。主に、複数名での外出支援や外出支援などを行っています。	天気や利用者の希望に応じて、散歩に行ったり、家族の協力を得て外出する等している。日頃の会話から伺っていた場所へ出かけられるように検討し、事業所の車両で密を避けて、梅園やぼたん園、船小屋の足湯等へドライブに行く等の支援をしている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の金銭の保持は行うが、まとまった金銭の自己管理は、可能な方にとどまり、施設としては、現金を持つことはあまり推奨していません。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望に関しては、細目にお電話を支援するものの、相手先もあることなので、合意のもと行っています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よい共用空間（主にリビングと玄関前）作りを行っています。季節の創作物を飾りつけ、季節感を感じていただけるよう努めていますが、まだ十分なレベルに達しているとは言えません。現在実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。	共有空間は、整理整頓・感染対策を行い、家族等との面会支援を行っている。利用者の動線に配慮した家具や利用者の席を配置している。羊毛フェルトの風景画、ちぎり絵、利用者手作りの絵馬等を飾っている。利用者が家庭的な雰囲気の中で、思い思いに居心地よく過ごせるよう配慮されている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席次を工夫したり、より機能レベルの近いご利用者同士での交流が、生まれやすいように働きかけを行っています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室空間は、施設スタッフだけでなく、ご家族も一緒に作り上げることを依頼しています。また、衣替え等の居室の整理も同様です。居室環境の環境整備・整理整頓の徹底を指導していますが、まだ十分なレベルに達しているとは言えません。現在、実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。また、衣類を出し入れする仮性作業等がある方への支援を模索しています。	居室の入口に利用者の笑顔の写真の表札が掛けられ、室内はこれまでの暮らして使っていた物、着ていた洋服や思い出の品が持ち込まれている。また、家族の協力を得て、季節の衣替えや居室の整理整頓を行っており、利用者と家族や職員との大切な時間になっている。その人らしい居室・環境を整え、安心して居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的にバリアフリーの構造であるため、施設内の移動は可能です。安全に屋外に出れるような中庭もあります。廊下幅や居室の間口が、設計上、現在の基準から比べると狭い構造にはなっていますが、自力での移動や介助での移動が可能です。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	有する能力に応じ、自立した日常生活を営む支援を徹底する事に努め、ご利用者様の思いや願いを尊重し、生まれ育った町で、長年住み慣れたなじみの地域で、ご本人らしい生活が送れるように、認知症ケアが特別過ぎるものではない、という認識をもって、日々のケアに取り組んでいます。1人の個人と尊敬を持ち、目標や方向づけることや具体的な方法論に落とし込めるよう指導しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	狭い範囲ではなく、広く地域の方と付き合うことや地域の方に頼りにしていただけるように、認知度の向上や情報発信を行っていきたくと考えています。運営推進会議や地域ケア会議での症例発表、中学校での福祉講座、民生員向けの施設案内、施設行事(お祭りや季節行事)の地域への案内や地域敬老会への参加、園児の慰問依頼など行っています。(コロナ禍で案内送付実施)		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ情報発信不足ではありますが、認知症の方の支援に関して、より有意義な情報を発信していければと思っています。介護事業所として、発信できることは何かと模索しております。キャラバンメイト活動(オレンジ教室)や地域ケア会議・多職種連携会議などの参加を行っております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内での取り組み等の報告や地域の高齢者福祉等に関わる情報発信などを、行っています。特に大きな課題となっている人材確保や定着率の改善の取り組みなども、報告しております。また、意見の吸い上げ等も行っておりますが、コロナのため、書面での代替実施としております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2.と重複もありますが、みやま市の認知症ケアバス作成にあたり、作成補助メンバーとしての参加や、地域ケア会議・多職種連携会議での運営協力や症例発表等の実施、地域密着型協議会の運営協力を行っております。キャラバンメイトや地元中学・高校のキャリア教育にも参加しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	福岡県の身体拘束を行わない施設に登録し、事業所として、身体拘束を行わないことをトップダウンで発信するとともに、委員会設置による日々の啓発と見直し、職員教育を行っています。職員の理解に関しては、まだ十分なレベルに達しているとは言えませんが、現在実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の尊厳保持のため、また、接遇面での強化のため、マニュアルの策定と研修会の実施を行っています。職員に関しては、まだ十分なレベルに達しているとは言えませんが、現在実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	弊社では、グループホーム以外の他の事業所があり、入所のみに関わらず様々な状況の方の対応を行っており、必然的に入所のみならず対応の必要性が増えています。また、居宅や福祉用具も含め、それらの情報共有を図っているため、実践的にも活用できるようにしています。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関する説明は、入所時にきちんと行っています。特に問題になりやすい入所後の転倒などの事故や入退院に伴う事柄、終末期ケアや看取りに関する事柄などは、その都度、複数回の説明と同意などの確認を行っています。また、医療機関などの外部機関がからむ場合は、施設が間に入って、対応を行っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	接遇向上委員会の設置と、ご意見としていただいた内容をスタッフ間で共有し、サービス改善につながるような仕組みを作っています。また、年1回、利用者全ご家族対象に、顧客満足度調査とスタッフ仕事意識調査を実践し、調査の内容をもとに改善すべきことは、直ちに実施し、現在実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なスタッフ会議の開催を行っています。中間管理職の育成に努めていますが、まだ十分なレベルに達しているとは言えません。一旦、目標を変えて、現場サービスをしっかりと行うことを目標にしています。中間管理職の会議を、不定期ですが開催し、方針等のコンセンサスを作っています。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材育成制度を整備し、処遇の改善に努めています。成長意欲の高い職員には、外部の研修への参加を奨励し、全体的な底上げを図ることで、制度的・教育的就業環境の整備に努めています。本年は、コロナの影響もあり、社外研修の参加は少ないです。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用・処遇等において、特別な差別・区別等は行っていません。また、様々な専門職が縦割りにならず、在宅の高齢者福祉のプロフェッショナルを目指すことを主眼に置き、自由な発想と挑戦する気概を大事にするような職場環境でありたいと思っています。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	同和問題等に関しては、若年者には、歴史的にそういった風土があった点のみ説明し、中年者以降に対しては、どうしても生育環境等があるため、現代ではすでにその価値観自体が古く、誤っており、すでに時代錯誤である旨を伝えるようにしています。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	制度や外部研修への症例を行っています。最終的にはOJTに重きを置き、先輩や熟練スタッフが若手の育成に努め、また、若手が中堅に育っていくにあたり、若手を育てるという循環作りを目指しています。まだまだ教育体制として不十分な点も多いですが、実践レベルの向上を図っています。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個人の自主性を引き出しつつ、地域の連絡協議会や研修会への参加を奨励や、他施設の見学などを通し、施設内・法人内の価値観だけでなく、広く業界や地域・社会での情報に触れることができるように配慮しています。本年はコロナの影響のため、機会は少なくなっています。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り導入には細心の注意を払いながら、まずは日中の利用のみから始めるなどして、大きな環境の変化に対してネガティブな変化が起こらないように、可能な範囲で対応を行っています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者と同様に、導入には細心の注意を払いながら、しっかりと説明を行い、ご家族の求めるニーズとお困りごとに対して、真摯に向き合うようにしています。また、施設の限界や線引きなどに対してもきちんと説明を行い、理解を求めることで、後々のトラブルや言った・言わないなどのトラブル防止に努めています。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本的には医療面と連携して行うことがほとんどであり、初期に緊急を求められる治療的側面等があった場合は、医療機関との間に入り、しっかりと説明を行い、高齢者の場合に伴うメリット・デメリットを、ご家族に寄り添う形で説明するようにしています。また、導入時において、家族の協力を求め、協同していくようにしております。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も年齢・性別・立場・個性等が様々な中で、業務指導上では、あくまで私たちにとっての「お客様」であり、認知症があっても判断能力などの低下があっても「目上の方」ですので、接遇面を重視しています。その中で、人生の終末期である認知症や要介護状態のご利用者様を支えるために、スタッフ個人のホスピタリティや個性を生かした関わりを、支援したいと考えています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援しているのが施設だけにならないように、判断は、ご家族様に委ねますが、その判断のために、必要な情報はしっかりとお伝えさせていただき、ご家族と一緒に支えさせていただいています。また、疎遠になりがちなお家族様もおられますし、結果としてのトラブルを回避することも踏まえて、サービス面での限界に関しては、線引きも重要と考えています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に入所するという事は、なじみの人や場との関係が、基本的には途絶えることとなりますが、様々なケースがありますので、途絶えたうえでも、人と人とのコミュニケーションが、なくならないように援助をしていきますし、ご家族様や近隣の方が訪問しやすい施設であるように努めています。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る限り、部屋にこもりがちにならずに、共用のリビング等、他者交流が取れる場で、介護サービスを提供したいと考えています。反面、集団生活が苦にならないように、お元気な方にはゆっくりする時間やプライバシーを保たれる時間も必要になります。また、お元気な方同士のコミュニケーションが、生まれやすいような席配置など心がけています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了の仕方にもよりますが、入院等を伴う場合は、入院までの調整や情報提供・フォロー等説明をきちんと行い、先方が困らないよう相談・支援を行います。また、施設看取りの場合等も、診断・エンジェルケア後にお見送り・代表者のお参り等をさせていただいています。終了後は必要であれば、居宅等への丁寧な引き継ぎなどを心がけています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を聴取できる場合は、もちろん本人本意ですが、必要性や清潔保持のためには、多少の説得等を伴う場合があります。聴取できない場合は、ご家族様から聴取する形になりますし、徐々に本人本意ではなくなりますし、意向より身体的な苦痛がないかなどが、重要になってくるかと思うので、状態によって必要性を見極めながら援助を行っています。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	まずは、入所時・ご利用開始時の情報収集をしっかりと行っています。本来であれば、この時点で、もっと生活に関する情報を手厚く集めたいのですが、手続き的に、ボリュームが大きくなってしまっていることもあり、入所後の情報収集になってしまっています。この点に関しては、より職員間の共通認識をしっかりとするために、初期の段階のケアプランにより盛り込んでいけるように、情報収集のタイミング等を考えたいと思っています。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ一人ひとりのアセスメント能力が、まだ十分なレベルに達しているとは言えませんが、現在、実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。スタッフの育成に合わせて、文章にする力や専門的な共通認識のもと、他者に伝える力を育成したいと考えています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	専門職を含めた共通認識を作るために、基本的なクリニカルリーズニングとロジカルシンキングをベースにしたいと考えています。現段階では、その点に関しては、一部の有資格者や中堅以上のスタッフの意見にあると思いますが、経験の浅いスタッフ等にも、考え方の基本を学んでもらうことが重要と考えています、それを踏まえたチームアプローチを目指しています。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付きや共有において、重要な点が、先入観をはずした客観的な視点とそれらを言語化することだと思いますが、いわゆるこのPDCAサイクルが、まだ十分なレベルに達しているとは言えません。現在、実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化に対応するための看護職員の配置や医療連携体制をとっています。様々なニーズに対応するためのスタッフ配置に取り組んでいるところです。必要であれば、リハビリセラピストからのチェック体制を作っています。共用型のデイサービスを含めて、ニーズに合わせた対応ができていけるようにと考えています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内での散髪などを定期的に行っています。また、園児の慰問や地域の演芸サークルの方の慰問などを取り入れています。地域のボランティアの方の受け入れも、積極的に行っているところですが、地域的な所もありますが、なかなか集まらないのが現状ですので、人材収集方法を検討していかなければならないと考えています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族等の希望がある場合は、在宅時からのかかりつけ医との連携を図り、特に希望がない場合は、施設のかかりつけ医との連携をとっていきます。施設・施設スタッフが間に入ることで、コミュニケーションや必要・不必要が明確になり、医療を受ける機会の喪失や過多にならないように、適度な医療を提供できるよう注意しております。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師が、医療機関看護師と連携を図り、スムーズに受診や検査等ができるように努めています。また、代理窓口として、本人様やご家族様の希望が、きちんと伝わるように支援しています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	施設サマリーの提供や在宅医からの紹介依頼のつなぎを行い、受診・入院時の情報提供をきちんと行い、普段のレベルや介護状況がきちんと伝えるようにしています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	中重度介護者への介護サービスや終末期ケア・見取りといった点では、自分たちの施設の限界を認識し、きちんとそれらを説明・同意を得ることが重要だと考えています。スタッフの共通認識に関して、まだ十分なレベルに達しているとは言えません。現在実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の防災訓練にて、急変時の対応も盛り込みながら、実践を行っています。事故発生時の対応等も、後で管理者や上長にあたるものからの対応に関するフィードバックなどを行い、反省点等に関しても、次回に生かせるようにしていきたいと考えています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の防災訓練にて、実践を行っています。防災設備や建物の給水・給湯等の環境の理解なども含めて、訓練を行っています。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳やプライバシー意識は、どうしても入所施設や認知症の方を対象にする場合に、おざなりになりやすい部分であると思います。「当たり前の意識」や「慣れ」、「鈍感さ」などをキーワードに、出来ているから大丈夫ではなく、自分を律していくことを、常に求めていく必要があると感じていますが、まだ十分なレベルに達しているとは言えません。現在、実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択が、難しくなってきたご利用者様に対して、個別のニーズを聞き、それを個人に対してのみ提供することは、あまり公平・公正なサービスとは考えておりませんので、スタッフに対しても、自由な枠組みで、偏った個人の意見のみを吸い出すのではなく、ある程度の枠組みを作ったうえで、スタッフにも実践しながら、考えられるようになってもらいたいと考えています。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症ケアにおいて、気分を盛り上げていくことや、1人では作ることのできない生活バランスを、コントロールしてあげることが必要だと考えていますので、施設の時間を優先するわけではありませんが、それらに乗ってもらう・沿ってもらうことが大事だと考えています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室環境の整備や衣類の調整など、現在、実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。過去に、美容ボランティアさんによるお化粧品などをイベント的に行っていただきました。日常的なこととこうしたイベント的な内容を組み合わせながら支援ができればと考えています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昨今の衛生管理の問題等もあり、食事の準備にご利用者様が入ることは、少なくなっており、お菓子作りやその他の行事などに、衛生管理をしてたうえて、一緒に作業を行う形をとっています。オープンな厨房で、視覚や嗅覚など五感で感じていただくことが、食事の楽しみになるかと思いません。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「食事満足・摂食嚥下向上委員会」を設け、看護師を中心としたウェイト・栄養管理と、介護士を中心とした食事の満足度の向上・摂食嚥下機能のアセスメントとその対応を、しっかりと見直しながら行っています。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実践を行うこととしておりますが、まだ十分なレベルに達しているとは言えません。現在、実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄機能の低下に関しては、排泄そのものというより、排泄に伴う周辺の動作や更衣に対してできる機能を保てるように支援を行い、介護度が増すにつれ、増えるオムツやパッド類の経済的負担が大きくなっていくため、効果的かつ効率的な使用を行えるように努めながら、尿路感染などの起きやすい病態の予防に取り組んでいます。まだ十分なレベルに達しているとは言えません。現在、実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のヤクルトや牛乳などの対応や、食物繊維を多く含んだ素材や野菜類を、できるだけ盛り込んだ献立作りを行っています。お薬だけに頼った対応にならないよう、ケアのできる工夫を行っています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本的には、2~3回/週、希望があれば4回の入浴頻度を保てるようにしており、ご本人またはご家族からの希望や必要性・身体への負担などを考慮して入浴の支援を行っています。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室環境で眠れない方もおられたりするので、リビングにパーソナルチェアを設置し、日中・夜間ともに、安楽の半臥位で、ゆっくりできる環境を作っています。リスク管理上、あまり閉鎖的な居室環境に居づらいう方も、共用部で見守りしながらの安楽姿勢がとれるよう工夫しております。また、チルト・リクライニングの車いすを用いたりもしています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設看護師のみならず、かかりつけ医・訪問看護や薬剤師と連携し、服薬支援を行っています。医師・薬剤師と密な連携をとり、対応が難しい下剤、精神安定剤、抗認知症薬、睡眠導入剤などの細やかな調整を行っております。実践レベルの向上に取り組んでいます。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間の行事予定や月々の行事・活動予定をたてながら実施しています。レクリエーションのバリエーションや運営に関して、まだ十分なレベルに達しているとは言えません。現在、実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出先の希望を募ることで、外出支援を行っています。主に、複数名での外食支援や外出支援などを行っています。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の金銭の保持は行うが、まとまった金銭の自己管理は、可能な方にとどまり、施設としては、現金を持つことはあまり推奨していません。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望に関しては、細目にお電話を支援するものの、相手先もあることなので、合意のもと行っています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よい共用空間（主にリビングと玄関前）作りを行っています。季節の創作物を飾りつけ、季節感を感じていただけるよう努めていますが、まだ十分なレベルに達しているとは言えません。現在実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席次を工夫したり、より機能レベルの近いご利用者同士での交流が、生まれやすいように働きかけを行っています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室空間は、施設スタッフだけでなく、ご家族も一緒に作り上げることを依頼しています。また、衣替え等の居室の整理も同様です。居室環境の環境整備・整理整頓の徹底を指導していますが、まだ十分なレベルに達しているとは言えません。現在、実践レベルの向上と徹底に取り組んでいるところです。また、衣類を出し入れする仮性作業等がある方への支援を模索しています。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的にバリアフリーの構造であるため、施設内の移動は可能です。安全に屋外に出れるような中庭もあります。廊下幅や居室の間口が、設計上、現在の基準から比べると狭い構造にはなっていますが、自力での移動や介助での移動が可能です。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		